大御書之番

三

浪 四

内閣文庫
和書 類
三二五六九 號
三九二 冊
一五 函 一六 架

内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394(298)
函號 152 121

共六

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄三午年二月廿一日

内藤源兵衛為勝二男也

山岸傳左衛門坂本藤吉組

大御番松平主計頭組 御番 新規 内藤彦五郎勝休

勝休事大坂の御番ニ而年々參府く

元禄四未年二月十日 麹町五丁目乃

大番ハかく居所替ニなりても

元禄九子年十二月廿一日 五とせの間富

士をかけちぎりとて末代今枝を備る

享保元申年四月廿一日大御番組入

享保二酉年二月廿一日二条城の宿直ニ

奉書六十帖白銀拾枚時服二ツ給り
是より以後も御恩賜有り
享保四亥年秋地震の験言上事有り
享保八卯年夏二度地震の前兆言上事有り
享保十巳年三月廿七日大公方様の時
御ひとゝ筆の羽織を意ゝ言上ニ付く
勝手次第と拝む
享保十一午年七月八日隠入青木右馬之允
享保十二未年十二月廿三日致仕
延享三寅年十二月廿八日死 八十七歳

元禄四未年四月廿五日
貞享三寅年七月十日家督
大番青木甲斐守組 元禄元同御番
神保甚右衛門清膳養子
實ハ信濃内藤上野介組
三百俵 神保甚右衛門清満
正徳三巳年六月十二日元方御金奉行
清満京大坂の両度ニ御用ニ付参く
享保元申年十一月廿三日羽州御代官
享保五子年九月廿七日御役を奉りて
御勘定奉行支配無役ニ成り
寛保二戌年八月十八日死

元禄四未年四月廿七日

延宝七未年六月二日被召出

神田御殿御小性

大御番青木甲斐守組

河田中務常政惣領

小普請大久保壱岐守組

二百俵　河田平右衛門常英

改　久五郎

常英[illegible]故の[illegible]年[illegible]二度

元禄九子年七月四日　御番御免　御納戸

同年十月六日大御番一柳土佐守組江御番入

元禄四未年四月廿七日

貞享二丑年　月　日跡目

大御番青木甲斐守組　元禄之頃御番

河野八郎左衛門通久養子
小普請彦坂壱岐守組

二百俵　河野彦三郎通定

通定ハ元禄之頃の家系ハ未ダ事ニ云々

享保十四酉年十二月廿七日孫入当切米之儀之配

寛延二巳年七月廿九日死七十六歳

元禄四未年十二月二日

小普請奉行竹村九郎右衛門嘉敦惣領

大御番青木甲斐守組　二百俵　竹村源次右衛門嘉珠

後四百俵

元禄七戌年二月廿二日廩米二百俵加増

宝永七寅年十二月十八日浅草御蔵奉行と

兼ねて御役を務る

享保十三申年四月十五日跡目四百俵是迄の

二百俵ハ返し奉る

享保十六亥年四月十五日御広敷番之頭

同年十月二日寄合入建部内匠頭支配

享保十九甲寅年三月四日死

元禄四未年十二月二日
大御番青木甲斐守組 二百俵 小林百之助正興
御蔵米御留守居番甲府奉行小林権之丞正利惣領
改 源郎
元禄五申年五月廿九日廩米二百俵を
賜る
元禄七戌年十月廿八日 任叙 桐之間御番
同年十二月廿一日元の大御番ニ被仰付
但白洲書

元禄四未年十二月二日

冨吉九右衛門之跡 松浦八郎兵衛勝長養子

大御番青木甲斐守組 二百俵 松浦新五郎勝照

後二百石 後八郎兵衛

元禄五申年六月廿八日 廩米二百俵を賜る

元禄六酉年五月二条城の宿直に参り

元禄九子年秋招城の殿舎番の時失火あり

役をも勤免

同年十二月廿二日ゆるさる間 宿直に

かけたるべきとて 黄金五枚を賜る

元禄十二卯年夏二条城の御在番に参り
御破損奉行を勤め九東西御小屋を
造りしをもつて奉行を勤む
同年閏九月十五日御褒金三十両を賜る

元禄十五午年二月十九日大御番組に
同年三月廿三日御加恩二百石 凡三百石
同年六月廿八日坂城の在番に参りまた六
御暇白銀拾枚時服二を賜り是より
以後も此恩賜あり
宝永元申年十二月六日 新恩の
御書出しを賜り武州久良岐郡
冨岡村町屋村等賜り

宝永二酉年夏二条城の御在番に参り
宝永五子年秋坂城の在番に参り
正徳元卯年夏二条城の御在番に参り
正徳四午年秋坂城の在番に参り
享保二酉年夏二条城の在番に参り
明の
享保三戌年十二月四日 京職 松平
伊賀守忠周朝臣の組に召されて
山城国淀城引渡御用を命せらる
三月九日人馬の御朱印を賜り
黄金二枚をたまはりし朝倉甚平と
ありしく此日京都をたち十日

淀城を拝領し十三日城を引渡
京に帰る
同年二月廿三日紀州より
浄圓院君下らせ給ふ御供を命せ
らる四月三日人馬の御朱印を賜り
六日伏見より来り十八日
浄圓院君を警衛し五月朔日江戸よ
かへり同月九日淀に帰り此度労により
これにより白銀樹を賜ふ
享保五子年秋坂城の警衛に来り
享保六丑年十一月廿八日御先鉄炮
同年十二月十八日布衣を免さる

享保九辰年三月十二日大坂御蔵
役をあつへしと仰出され
享保十巳年二月七日加役を免さる
享保十二未年八月廿八日来年日光の
御供を命せらる明の申年四月
廿日白銀拾枚を賜り四月十二日江戸を
立ち十五日古河上野口を警衛し
十六日より十八日迄日光の本宮
坂上を警衛し十七日御神禮を
うけ十八日日光を立ち十九日古河の
上野口を警衛し廿日帰る
享保二十卯年十月十八日西尾隠岐守

忠恵祖臣の躬に至されて采倉三郎
将補之御家の事ぶ遠出て三家に
まきまちへ〱親〻に宿初を作よ
両次て取ひ書を捧し事ぶ将の
事ちるとして出雲信よりも己籠居
至へしし信出さ迄能樂兩半御座と
有り

同年八月十四日籠居を免されまし
寛保二戌年二月三日死を免されて
年始に出仕す
寛保二戌年七月十六日 致仕髪を剃て
道本と云

宝暦五乙亥年四月十四日死 八十五歳

元禄四未年十二月二日

大御番青木甲斐守組

元方御金奉行大久保清右衛門祐宗養子

二百俵　大久保源六右衛門祐勝

後三百五十俵

元禄五申年十二月廿三日廩米二百俵之内より

祐勝事大坂の御番衆ニ年々手当之

正徳元卯年　月　日蹴目三百五十俵高之

二百俵ハ返し奉る

享保九辰年八月廿一日称入伊丹兵左衛門と改

同年八月廿九日死事ニ一家

元禄四辛未年十二月二日

大御番青木甲斐守組　二百俵　菅沼千之助重政

小十人組　菅沼左太夫重秀妻兄

後三百俵

元禄五壬申年四月十二日願之二百俵を

揚る

重政事大坂の宮番ニ而年々奉公致

宝永二乙酉年十二月十九日帰国　二百俵

是ゟ元の二百俵ハ返し奉る

正徳二壬辰年十月十七日死

元禄五申年十二月十八日

山岡四郎右衛門宗房嫡子

兼遠三千石新神田跡目

小普請大久保玄蕃組

大御番三枝摂津守組　元神田衆

三百石　内百俵　山岡八郎左衛門宗逸

宗逸子又段の跡之儀又年ゟ事ニ候

正徳二辰年九月二日死　六十四歳

元禄五壬申年十二月十八日

寛文二壬寅年三月廿六日於田舎ニ出生　平野五左衛門貞秀二男

小普請信濃内藤上野介組

大御番三枝摂津守組　元禄四備

二百俵　平野甚左衛門勝重

跡　二百俵高

勝重　京大坂の富臣に参る事

之段

元禄十五午年六月二日　辞入村越伊豫守組

宝永四丁亥年九月十二日

元禄六酉年二月六日

伊庭三右衛門重彦忠子
小普請大久保玄蕃組
元禄四未年　月　日跡目

大御番三枝能登守組　四百石
内二百俵　伊庭新右衛門重光
後　新右衛門

重光事大坂の御加番ニ年々勤ル

元禄十四巳年九月廿六日小普請入

元禄十六未年六月廿六日東叡山
御宮を修し并ニ王子社を修覆し并
右八幡の社を修造なさしめ御用を
勤しこそ時服ニ而頂戴
同年十一月廿二日就大地震ニて破壊

まし〳〵東山
御宮御佛殿を修せしむる御用を命せしめ
同年十一月廿九日江戸地震にて破壊せし
郭門を初處々をかりに修せしに労
ありとて時服二つを賜る
宝永元甲申年三月廿日來る五月
嚴有廟の二十五回の御法會御用を命せらる
五月十四日其御用を勤めしとて黄金二枚
時服二つを賜り
同年十二月廿八日去年地震にて破壊
せし東山
御宮御佛殿并始郭門を造り替へしに
労ありとて黄金三枚時服二つを賜る
宝永二酉年八月十八日死

元禄六酉年二月六日

元禄五申年十二月十二日跡目

大御番三枝能登守組

大久保八右衛門忠信養子
小普請荻原伊豫守組

當表 大久保三右衛門永有

改 三八郎 八十六丈

永有事大坂の節三右衛門与申事申候

宝永元申年十二月十一日 新御番三枝日向守組

元禄六酉年十二月廿一日

延宝八申年九月廿七日跡目

松下志摩守宣就惣領

大御番三枝攝津守組

小普請彦坂壱岐守組

三百俵 松下志摩守宣将

宣将弟大坂の宿老不如意年寄候く

宝永三戌年七月廿五日 新御番土屋相模守組

元禄六酉年十二月六日

田安ニ而左京大夫殿被仰付

元禄三午年十二月十三日於

小笠原佐渡守殿

大御書院三枚能登守組　二百五十石　田安上番御膳番

内七十俵

同年夏二ノ丸御殿之御普請御手伝被仰付

元禄八亥年十一月四日　元方御納戸

元禄六酉年八月十三日

元禄二巳年十二月十九日晦日

平野次郎左衛門正勝拙者
桐之間御番

大御番三枚継之守迦 罷儀 平野吉三郎勝忠

勝忠三ノ木大坂の定番に被為仰付事

三役

元禄十四巳年四月晋 御番不相廻小普請入

村越伊豫守組

同日井上大和守三番組の節より

すきまて御番に無きさる事

如斯之小普請入 ノーきん龍居に

後たすまし作出さる
享保四亥年八月二日病有之同晦日死
享保三戌年十二月廿八日死 享年四十歳

元禄六酉年十二月九日
新御番松平右近将監組源五兵衛清行女悪尻
大御番三枝摂津守組 二百俵 河内良之助清行
改 伝七郎
元禄七戌年二月廿九日病家督二百俵之遺跡
清行弟大坂の番衆より年々番 二十三歳
元禄九亥年四月十二日 依願 掛之御番入

元禄六癸酉年十二月九日

大御番三枝能登守組

持方御組頭山角三郎右衛門定和惣領

二百俵 山角彦太夫定恒

後四郎右衛門

後 文右衛門

元禄七甲戌年二月廿五日廩米二百俵を賜り

定恒家事大坂の高まて年〻家〻

享保七壬寅年十月晦日嫡男四郎右衛門定之

二百俵ハ返し奉る

享保十七壬子年三月廿七日大坂之御将の時

小八息男ゟ平右衛門定重を歩行頭まて

出す

享保十六亥年七月廿四日様入福嶋九兵衛支配
元文元辰年四月廿七日致仕
元文三午年六月十一日死

元禄六酉年十二月九日
大御番三枝摂津守組
御番酒井右京亮組中畑西三義忠尻
二百俵 永田善之助正安
後 孫兵衛
元禄七戌年四月廿九日廩米二百俵之備り
元禄八亥年二月十二日
従 新番 御進物番
同年七月十二日御次番
同年九月廿七日 但元大御番三枝摂津守
組ニ而御番

元禄六酉年十二月九日
大御番ニ被成能登守組

御書院桐之間番組六右衛門忠房惣領
二百俵 小澤五郎兵衛忠順
後六百石 後 六右衛門 六左衛門
元禄七戌年十二月廿九日廩米二百俵之高ニ成
元禄八亥年七月十一日加増六百石高ニ成
二百俵ハ返し奉る
元禄九子年九月十四日御近習番
元禄十丑年四月廿二日御小納戸
元禄十乙年五月廿二日御小性
同年八月廿二日小普請ニ入 つ支配 大久保

元兼氏御手ニ入
宝永元申年十月十二日 細元 大師書三枚
能登守殿ゟ御書

元禄六酉年十二月九日
大師書三枚能登守殿
大師書并桐之箱入九之房昌村忠兵衛
二百俵 酒井傳右衛門某
後四百俵 後七郎左衛門
元禄七戌年正月十九日右之二百俵を
得る
傳右衛門某二之坂宮寄合ニ年
ゟ々
享保元申年十月廿日 除目四百俵
是々の二百俵ハ返し奉る
辞入 中川淡路守殿

享保三戊年九月廿六日失心せし
こて四百俵を収られて一生のうち
十口を賜り其後死て家たへたり

元禄六酉年十二月九日

大御番三枝能登守組 二百俵 水野新五左衛門信賢

大御番松平淡路守組水野弥兵衛信政養子

段 吾三郎

元禄七戌年四月廿九日廩米二百俵を

賜り

信賢ハ其父の家督を賜り

元禄十三辰年六月廿九日父失ぬれとも

かの前の科によりてハ遺跡を継ハす

元禄十六未年八月七日番入大久保玄蕃頭組

宝永三戌年四月十三日死五十一歳

元禄六酉年十二月九日

大御番三枝能登守組

大御番加藤孫兵衛組伊賀守左京亮当行與尻

二百俵　小宮山甚右衛門昌鳳

後七百石内二百俵

七百石

元禄七戌年正月廿九日廩米二百俵を賜り

同年十一月廿三日加増七百石足さし乃二百俵ハ

返し奉る

昌鳳家大坂の定番より来つて年廃く

元禄十五年七月三日廩米二百俵を采

地にかへし給ふ

正徳三巳年正月廿三日大御番組入

正徳四午年七月朔日坂城の惣会所にて
年寄共へ八幡聖白銀拾枚時服二を賜り
是より以後も御恩賜有り
享保二酉年夏二条城の宮室に参る
享保四亥年秋坂城の普請に参る
享保八卯年夏二条城の普請に参る
享保十一午年三月廿七日大納言御将の時
小八藍といふ菜の花に白き上りて蓋乃
丸どちりしたる服織を召し一つ下さ
れし御子孫む
同年秋坂城の普請に参る
享保十三申年六月三日辞入松野八郎左衛門と死

享保二十卯年六月朔日死六十四歳

元禄七戌年四月十二日　本多喜左衛門里盛次男

正和元酉年六月廿九日西丸江出ル　元西丸　御近習番

大御番三番稲垣長門守組　三百俵　本多金五郎重雅

元禄九子年七月四日　御小納戸

元禄十五年閏七月廿七日　大御番二ノ木

三ヽ水西組日向守

元禄七戌年閏五月九日　松平右衛門四男

寛文二寅年二月廿四日神田ニ而出生　小普請大久保主馬頭組

元禄九亥

大御番三枝摂津守組　三百俵　松平右衛門正副

正副事大坂の病気ニ付承る年　三度

元禄十五午年十二月二日死

元禄七戌年閏五月九日
川窪監若左馬信本書所
元禄四庚 出雲守信
大本書二拾枚紙也已上 三言侯 川窪信左衛門 某

信左衛門某 右之趣の写を仕候事
元禄十二卯年夏二条城の於ニ番所ニ候事
四月廿四日某の跡を以 無心
白文之根本書 川窪沢左衛門 相承
信左衛門に於二枚之通書付差上
白帋二而 包候

元禄十二卯年四月廿七日 菅沼織部正殿江御預

由緒によりて三百俵を収められて
家絶ぬ

元禄七戌年六月廿六日 松平伊賀守忠熙所
延宝二寅年七月 日光神田蔵 桐之間御番
大御番三枝能登守組 元御番 二百石 松平伊賀守全
守全二男大炊の家督に乗り年若く
享保十三巳年十二月朔日
小普請 若近習番
旧日御役料二百俵を賜る
享保十三年十月六日 二番町
松平土佐守か上ヶ地のうち
三百坪の地を賜り屋敷となる

郷八収ニ
享保十三申年十二月十五日死六十二歳

元禄七戌年十二月十五日
大御番二宮信濃守組
小林権左衛門養子
御番桐同御番
二百俵 小林源四郎正真
正真養父大坂の宿老ヲ承ル
元禄十六未年九月十五日 御役 部屋住 松平三平組
宝永二酉年四月三日 組替 大御番 松平
近江守組ニ而相勤

元禄八乙亥年四月朔日

大御番三枝摂津守組　御番

渋谷市左衛門清貞四男忰

小普請大久保玄蕃頭組

三百俵　渋谷左京亮二男

俵五百石　段　渋六郎

元禄十三庚辰年七月三日廩米五百俵を

宛地になし被下下総国匝瑳郡

野手村香取郡森戸村　大門村

井戸山村の内にて被下

元禄十三庚辰年十月十二日大坂御鉄炮奉行

元禄十四辛巳年五月十八日御暇黄金

一枚時服二ツ被下二月十五日寛之

三月十三日大臣に為す
正徳元卯年六月十五日新ひの亡とく
免さる　其九月大臣を仕る七月二日に学
帰り　松平右京亮組となる
享保巳年八月二日為永井宮内なる死
享保十七子年八月廿二日致仕一圓となる
寛保三亥年正月廿八日死　八十五歳

元禄八亥年九月廿七日
永田十郎正義惣領
大御番三枝攝津守組　御書　御次書　二百俵　永田甚之助正安
後　源右衛門
正徳五未年九月廿五日
宝永大坂の宿子年在く
任新番　移入松平伊豆守組
享保四亥年八月二日為永井宮内少輔組
享保十六亥年二月二日御目見惣領となる
二百俵八返し奉る
寛保元酉年四月廿日致仕幽居となる
寛延元辰年三月十日死

元禄九子年五月三日

大御番青木能登守組　御養父　大番長七郎 吉武忠(?)
　　　　　　　　　　　小普請　　　丹波守組
三百五十石
内弐百俵　太田長十郎吉寛

吉寛元禄五申年大坂の御番之子年より寅年三ケ度
元禄十五年十月廿七日大塚の屋敷にて
小日向水道町の邸へ越来り
元禄十六未年九月組入井上対馬守組
正徳五未年七月十二日致仕
享保八卯年三月十八日死六十余歳

元禄十五午年六月十日
福井源左衛門ニ而忠無所
小普請隠口播磨守組

元禄十二辰年七月十四日
大御番三枝能登守組　九百石　福井源左衛門某

宝永五子年十二月廿日死
源左衛門某末期故の家並に承く
舎弟清助某嗣き正徳元卯年
六月廿日死く子なくして
九百石を収められて家絶ゆる

元禄十六年五月十日

加藤五左衛門末休養子
小普請溝口摂津守組

元禄十五年十二月十二日跡目

大御番三枝能登守組　三百俵　加藤求馬休禮

宝永五子年四月九日御鉄炮御箪笥奉行

休禮ハ京大坂の宮本ニてよみ来る

享保二酉年十二月廿一日いまゝて居所
あかりて大坂谷中の町ニて
居所の地三百五拾坪を福る

元文四未年八月五日死

元禄十五午年五月十日

伊東源四郎祐政患死

元禄十二卯年　月　日済

小普請溝口摂津守組

大御番三枝能登守組　二百十俵　伊東九郎右衛門祐幸

宝永元申年八月九日　御腰物方

同年秋坂城の蒙番衛ニ参り

元禄十五壬午年五月十日
勝谷勘解由利雄養子
元禄十二卯年十二月十四日跡目
小普請溝口信濃守組
大御番三枝摂津守組　三百石　勝谷吉之助利秋
改勘解由
同年秋坂城の請取ニ参ル
宝永二乙酉年夏二条城の番ニ参ル
しに病しふく
宝永二乙酉年十月朔日於二条城在番死二十八歳
利秋の骸ハ上京寺町大宮鞘薬師ニ而
成圓寺ニ送ル

元禄十六未年六月十日
　　矢部次郎右衛門定常迄
　　小普請松平主計頭組

元禄二巳年七月十日跡目
大御番三枝摂津守組　三百俵　矢部助十郎定忠
　　改　六郎右衛門

定忠ヵ父ハ御書院番ニ新ニ被召出
しヵ定忠ヵ新ニ被召出て大御番ニ
つる　此事ハ得さるヵ故にハあらす
　　家督を承くおほせし事おもむへし
定忠ハ大坂の御番小十人ヵ事ニ言く

享保九辰年九月廿三日大坂御破損奉行
　同日現米八十石ニ備ヘ同心三十人を預け
　役料金七十両ニ賃ヘ備ふ

同年十二月十五日御暇並金一枚時服二ツを
賜ル明ル巳年正月九日御徒頭を
請免十二日寄合と三廿二日坂部ニ
享保十七子年二月廿七日大坂御船手奉行
同年の傳と云後丹後守ニ叙勅任
任ぜらる

享保十八丑年三月十五日摂州豊島郡
長興寺村村山新規御荒地新田を
造りさせる奉行を命ぜられ
明の寅年四月十五日造りさせ
四月廿一日其の賞として黄金二枚
を賜る

享保二十卯年閏三月廿五日飢の如く
御役を免され四月七日大坂を三十三日
寄合に入し入能勢市十郎支配
宝暦元未年四月三日致仕
宝暦十辰年六月十三日死 八十歳

元禄十五午年五月十日　多紀助之進定順病死

元禄十六未年十二月十四日　小普請松平主計組

大御番三宅備前守組　三百俵　多紀助三郎定経

後　豊之進

定経ゟ大坂の宿ゟ了ふ来る

正徳四午年二月十一日　新御番大屋頼母組

元禄十五午年六月十日
西丸御書院番米倉忠兵衛
小普請組松平主計頭支配
元禄九子年七月九日御目
大御番青山播磨守組 三百俵 西丸御書院番蜷川
被 西大御番
茂菊二京大坂の高五十俵
宝永三戌年十二月十八日元方御納戸

元禄十五壬午年五月十日

石野壱岐守広通嫡男惣領
元禄八乙亥年七月九日家督
小普請松平主計頭組

大御番三枝飛騨守組　二百俵　石野孫之丞広光

広光弟大坂の役之儀より来り
宝永四丁亥年十二月廿六日御腰物方

元禄十五午年五月十日　遠山十郎左衛門景忠惣領

元禄十四巳年七月九日聟　小普請大久保玄蕃頭組

大御番三枝能登守組　二百俵　遠山数馬景瑞

同年秋坂城の詰番ニ参る

宝永三戌年九月十三日番入　井戸対馬守組

宝永四亥年九月廿日死　三十歳

元禄十五午年五月十日

元禄十六未年七月晦日家督

秋田久左衛門某惣領

大御番三枝摂津守組　三百俵　秋田清左衛門某

小普請 水野長門守組

清左衛門某　元来大坂の家来ニ候条々書

前々

正徳五未年　月　日死

元禄十五午年十一月十五日

本多吉左衛門二男養子

小普請溝口摂津守組

元禄十四巳年七月廿日家督

大御番三枝能登守組 当儀 本多十兵衛 伝次

伝次 二条大坂の勤番二満子年 二度

宝永五子年閏正月十二日 新御番松平主馬組

宝永元甲申年六月十二日
小澤左右衛門忠孝惣領
小普請大久保玄蕃頭組
大御番三枝能登守組 御番 高君 小澤左右衛門忠順
忠順ハ弟大坂の繁右衛門ゟ来ル年寄く
享保七寅年二月十五日大御番組入
享保八卯年三月十二日死

宝永元甲申年六月十二日

雨宮三郎兵衛正義惣領
小普請米津周防守組

大御番三枝能登守組 弥部 三百俵 雨宮勘兵衛正忠

後三百石内百俵

同年　月　日父か遺跡二百石を賜り
是まての三百俵のうち百俵をわさる
正忠ニ弟大坂の宮並に分ある

正徳三巳年十二月十六日御材木石奉行

享保元申年十二月十六日小普請方

同年八月三日死

宝永元甲申年十二月十一日

元禄三年庚午五月廿日於江戸御殿向御書
山名長兵衛豊之守二男
小普請組遠藤備中守組
大御番三枝摂津守組 元高廩米 三百俵 山名長兵衛光豊

光豊之家大坂の節豊臣より年々年寄々

系　図

享保十二丁未年八月二日為酒井大学頭施
同年九月二日去之元禄十丁丑年十月
十二日息男長兵衛豊卿 後同備前守 相家
深元隆豊の養子として嗣子
なりもとへ許し実子なきによりて八

手傳三百俵を死後ニ勅られん
事を申付られ其後
享保十七子年四月十二日死其子六衛
元豊ニ實子なくして家絶ニ付
三百俵を収らるる

宝永元甲申年十二月十二日
河内新左衛門久重惣領
小普請近藤備中守組
御番衆
大御番三枝攝津守組　三百石　河内新左衛門久豊
内弐拾俵
久豊ハ京大坂の御番衆ニて年々事務く
享保二酉年七月廿七日死

宝永二酉年二月三日

元禄十二卯年七月十二日家督　本国十両三人扶持種久世忰

大御番松平遠江守組　三百石　小普請井戸對馬守組　原田彦五郎種定

種定義大坂の勤番ニ参る

正徳四午年六月十八日大御番組頭

同年七月朔日於城の諸番ニ而色々

御服白銀十枚時服二ツ被下

享保二酉年 二条城の勤番ニ而

義ニ付文前の通り御服の御恩被下

是より○○○次

享保七年秋松城の法清寺へ参り
享保八卯年二月四日老隠居松之丞へ帰り
入門後宗分ちて死
享保十八年三月廿二日死七十四歳

宝永二酉年十二月三日
宝永元申年　月　日務
奏者番松平近江守殿　森川中務少輔重時養子
小笠原佐渡守周防守殿
男名　森川七郎右衛門氏次
改　小右馬
同年夏二条城の御番に参りしに
病となり明る
宝永三戌年三月九日於二条城在番死四十二歳
氏次の骸を京都北野東向院に
送る

宝暦二酉年二月三日

元禄七戌年　月　日父彦右衛門跡目
元禄八亥年七月十二日祖父跡目

水上六左衛門正重嫡孫某祖
水上六右衛門正純忰
小普請松平主計頭組

大御番松平遠江守組　是儀　水上六左衛門正養

正養ニ京大坂の在番ニ參り年々
勤く

享保十三申年七月二日大御番組入
享保十四酉年二月十五日二条城乃
在番ニ參り候ニ付御服白銀十枚附被
下之賜る　此後も此恩賜有之
享保十七子年七月廿日坂城の請渡ニ

帰りつきたる家にて八月三日於
遠州濱松驛死四十四歳
西幕の骸を遠州敷知郡濱松
佐ゝ町 教典寺に送る

宝永二乙酉年二月三日
元禄十四辛巳年 月 日補任
松平右京亮ゟ西副将監
小普請 松平三平改組
大御番 松平近江守組 三百俵 松平六之助要

同年某二条城の勤番ニ来ル
宝永四丁亥年某所入として二条城ニ来て
病患ましに病あり

宝永四丁亥年十二月廿日於二条城在番死
西友の骸を京都北野 寺町
報土寺ニ送る

宝永二酉年二月三日

元禄二巳年　月　日済

大御番松平近江守組

石川百助一男惣兵

小普請大久保玄蕃頭組

三百俵　石川市十郎一殿

改　市左衛門

一殿京大坂の御番衆の事共之く

享保四亥年十月八日死　二十四歳

宝永二酉年二月三日

元禄十六未年　月　日譜

大御番松平近江守組　当酉廿　戸田中務逸時

戸田庄右衛門重常養子
小普請保田越前守組

同年夏二条城の御番ニ参ル

宝永四亥年秋大坂城の御番ニ参ル

正徳元卯年夏二条城の御番ニ参ル

正徳三巳年五月十九日死

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永二酉年二月三日
元禄十五年七月十日分知
大番南松平遠江守組
南部主馬重世二男
小普請保田越前守組
二百石　南部新五郎重仲

同年　夏二条城の勤番に参る

宝永四亥年十一月廿九日転入大久保淡路守組
享保二酉年七月廿八日死　六十八歳

宝永二酉年二月廿日

元禄十四巳年七月九日跡目

大御番松平近江守組

服部七郎右衛門保長惣領

小普請大久保玄蕃頭組

三百石　服部源右衛門保守

同年度二条城の番手ニ参ル

宝永五子年八月三日死

宝永六丑年四月三日

元禄七戌年七月十三日跡目

大御番松平近江守組

寛文四辰年西丸長崎監物大夫子

書院大久保淡路守組

八百石　寛新次郎西邑

後八百俵　改西邑吉丈

西邑家大坂の御定番ニ而年久く

享保十一午年七月八日大御番組入

同年同月十三日坂城の御定番ニ而年来六

御服白銀拾枚時服二ツ給り此外も

御恩賜り

享保十四酉年 当家の家来に参り

享保十七子年秋坂城の御定番ニ而参り

享保二十乙卯年夏二丸蔵の御番衆より
元文三午年秋坂蔵の御番衆より
寛保元酉年夏京の定番より
延享元子年秋二丸蔵御番衆より
延享三寅年三月朔日西蔵御門番役
同年十二月十八日病気ニ付免さる
寛延元辰年七月廿八日死 享年三十歳

宝永戊子年四月三日
宝永四亥年十二月廿四日家督
深尾七太夫元長惣領
大御番 松平近江守組
小普請 三枝摂津守組
高二百石 深尾次郎右衛門元長
享保二酉年二月廿六日死
元長子大坂の定番与力より来 三十五歳

宝永五子年四月二日

宝永二酉年十二月廿三日謁見

大御番松平近江守組　石川彦四郎惟次養子　実者久貝因幡守組

三百俵　石川三使郎次久

正徳四午年三月十日死

宝永五子年四月三日

宝永四亥年十二月十四日家督

河村又平衛清親養子

小普請石川因幡守組

大御番松平近江守組 二百五十俵 河村若右衛門清房

清房京大坂の御番之節又之参り）

享保元申年閏二月二日 新御番竹本土佐守組

宝永五子年四月三日

宝永四亥年十二月廿三日家督

久留十左衛門重政次男

小普請久貝因幡守組

大御番松平近江守組　二百俵　久留十左衛門重秀

重秀事大坂の定番として当年四月発

享保五子年十二月廿八日於大坂城在番死享九歳

重秀の骸ハ大坂小橋の傳長寺に送る

宝永五子年四月二日　布施宮右衛門　西勝孫兵衛
小普請　松平与三郎組
宝永三戌年十二月廿日家督
大御番松平近江守組　二百俵　布施茂右衛門西野
西野六兵衛大坂の宿老より参り
享保元申年二月十日　新御番竹本土佐守組

宝永五子年四月三日　小林権太夫正利惣領

大御番松平近江守組　三拾四歳　同日御番　小普請松平主計頭組

三百俵　小林源左衛門正貞

後四百石

正貞事養父の家督の内より弟へ分ヶ二ヶ度

正徳元卯年　月　日加増四百石足高の

三百俵ハ返し奉る

正徳三巳年　月　日御番入　大岡肥前守組

享保元申年六月晦日死　四十歳

宝永六丑年四月六日

摂津国豊嶋郡細河郷東村伊右衛門元備養子

大御番松平近江守組　二百俵　木村平右衛門正堅

後三百俵

同年同月廿五日廣敷番二百俵を賜ふ

今年まて百俵をとり御朱印を蒙る

正堅京大坂の定番に從ふ

正徳四午年七月二日右同三百俵是迄の

二百俵ハ返し奉る

享保元申年閏二月十一日新御番安藤次右衛門組

宝永六丑年四月十二日

大御番松平近江守組

御天守番ニて飯室市郎左衛門豊昌惣領

二百俵 飯室三郎左衛門昌豪

後 三百俵

同年同月廿二日廩米二百俵を賜り

昌豪来大坂の警衛より帰る事なく

享保六丑年四月廿九日諸目二百俵是迄の

二百俵ハ返し奉る

享保十七子年秋坂城警衛より帰りしに

其時御買米御用を命ぜられ其

事をよく勤めし明の丑年二月に帰りし后

九月十三日営中に於て御宴会之節御免ニて
労役として黄金壱枚を賜る
元文四未年十二月十八日浅草御蔵奉行を
兼へき旨仰下さる

元文五申年九月廿七日御賄頭

同年十二月十一日常に勤を謹しみして
勤るとて黄金二枚を賜る是よりして
此恩賜年々毎に賜りけり

延享四卯年四月廿三日西城の御納戸頭

同年十二月十九日布衣を免さる

宝暦三酉年八月六日死七十二歳

宝永六丑年四月六日

大御番松平近江守組

御具足奉行桜井甚之丞備忠所
二百俵 松下甚三郎長儀
後高五百石

同年同月廿六日蔵米二百俵を賜り
今年八百俵となりこの仰を蒙る
長儀弟の故の家督を承る事なく
享保三戌年六月廿七日加増五百石に
その二百俵ハ返しする

享保八卯年十二月四日移入伊丹若狭守支配

宝暦七丑年十二月十二日致仕

宝暦十辰年四月十二日死 六十三歳

宝永六丑年四月六日
新御番保科甚左衛門組右大夫四男義養子
大御番松平近江守組
二百俵 原田喜右衛門 正種
後二百五十石
同年同月廿二日 廩米二百俵を賜り
享保十巳年十月十三日 跡目二百五十石 是迄の
二百俵ハ返し奉る
享保十一午年三月廿七日 小金御狩のとき
御場にそって 昼夜出入を務て非違を
いましむ
享保十八丑年十月廿三日 大御番組頭

享保二十卯年二月廿八日二之丸城の番ニ當りて
來事は御帳面銀拾枚切腹ニ及ぶと偽り是より
して右番の時皆息偏有り
元文三午年秋坂城の番ニ當りて
寛保元酉年夏二之丸城定番ニ當り候時
御番所別而御用御城中を出奔せし
事ニ依て七月十二日細川急ぎ御前ニ出る
事を止らるの旨被仰出七月廿九日免さる也
延享元子年秋坂城の番ニ當りて
延享四卯年二月十三日老弱偏金二枚入長崎
久之御中支死
宝暦六子年八月廿七日死 八十一歳

宝永六丑年四月六日
大御番松平近江守組
新御番松平主馬組惣右衛門昌辰惣領
二百俵 西山伊織昌重
同年同月廿日廩米二百俵を賜り
昌重京大坂の番ニ當り事ニ勤く
享保二巳年夏二之丸城の定番ニ當り候
明の戌年正月ニ至る時
浄円院君紀州より江戸ニ御下りの時伏見
より警固して江戸ニ到る時迄ハ
此度の事ニ労ありとの仰せを蒙りける

白銀五枚を賜る
享保七寅年十二月廿五日任郡代辞入青山右衛門か支配
享保十六亥年四月廿日跡目二百十五俵を
もとの二百俵ハ返し奉る
寛保元酉年七月廿日致仕
宝暦十辰年二月十八日死八十歳

宝永六丑年四月廿日
大御番松平近江守組
新御番能勢市十郎組次右衛門言勝二男部屋
二百俵　川澄一学勝由
同年同月廿二日廩米二百俵を賜ふ
今年八百俵をとりし例にと家する
勝由ハ京大坂の役之備にて来る
享保元申年十二月廿日任郡代中勝揚方

宝永六丑年四月廿一日
大御番松平近江守組
新御番竹本土佐守組喜左衛門惣領
二百俵 冨永新九郎守善
後 喜左衛門
同年同月廿三日廩米二百俵を給ふ
守善京大坂の蔵奉行を勤む
正徳五未年十一月十一日
任 部屋 元方御納戸

宝永六己丑年四月六日

新御番古屋杢兵衛組孫八郎資長惣領

大御番松平近江守組　二百俵　篠山八三郎資信

後二百五十石　内五十俵

同年同月廿二日廩米二百俵を賜り

今年まて百俵をとりて御伴をも務る

資信京大坂の在番に従ふ事

十度

享保四亥年十二月六日加増二百五十石

先とりの二百俵ハ返しまいらする

延享元子年五月十三日辞入長谷川久三郎支配

宝暦七丑年十二月廿六日死　六十四歳

宝永六丑年四月六日

大御番松平近江守組　二百俵　水野源助信宗

携ゟ御預ケ水野市左衛門信休惣領

同年四月廿六日雇米二百俵を購り

今年迄百俵とう御役を務る

信宗　京大坂の御番衆に来る事

なし

享保二酉年夏二条城の御番に来る

明の戌年夏帰る附

浄圓院君江戸に下らせ給ふ御供也と

暫免六月九日労ニつきとして白銀
五枚を賜る
享保六丑年十二月廿日十七ヶ年同
家事ニつけ苦労として黄金拾枚を
賜る
享保十午年二月廿七日大納言様将の時
出仕勤労として暫免
元文二巳年三月十八日死 五十六歳

宝永六丑年四月六日
大御番小笠原右近将監組
浅井御番奉行小林又兵衛跡式
大御番松平近江守組 二百俵 小林源右衛門 西谷
同年同月廿二日 番料二百俵を賜る
今年八百俵となる御作を蒙る
西谷二十人大坂の家事ニ付
享保元申年十一月廿五日 任 新番 御勝手方

宝永六丑年四月廿一日

大御番松平近江守組

大御番酒井越中守組橋本喜兵衛忰

二百俵　根岸権九郎吉利

同年同月廿二日廣敷番二百俵を賜り

今年より百俵をもつて御家人となる

正徳三巳年十月七日部屋住死

宝永六丑年四月朔日

大御番松平近江守組　大御番ゟ代越中守組喜右衛門道庵忰

二百俵　大石源八郎仲種

同年同月廿三日廩米二百俵を給ふ

今年八百五十俵となりて仰を蒙る

仲種京大坂の宿直をまかせらる事度々

享保九辰年十二月九日死　三十二歳

宝永六丑年四月二日

大御番松平近江守組　二百俵　諏訪部長右衛門久安

大御番惣代諏訪部宗右衛門二男実兄惣領

同年同月廿二日廩米二百俵を賜り

今年より百俵ハとめらふ作料を賜る

久安ハ家の旗の[illegible]にて事へ事し

ぶへし

享保七寅年四月廿日　依病辞　入同人家督子宗安女支死

同年十月廿四日　依病死

宝永六丑年四月十一日

大御番松平近江守組

御番大久保山城守組酒井雲重知實惣領

二百俵 覚助 進保利

後四郎右

同年同月廿三日廩米二百俵之儀今年八

百俵とあるハ御作り

保利京大坂の富東下条事度々

享保十七子年閏五月三日隠居四百五十石

已上との二百俵ハ返し奉る

延享元子年 三月十一日 辞入大番遠山伊勢守死

延享三寅年 十月二十日死六十二歳

宝永六丑年四月二日

大御番松平遠江守組　大御番大屋山城守組安三郎忠行忰

二百俵　大久保新三郎忠林

同年同月廿五日廩米二百俵之儀今年ハ
百俵之被仰付

寛保元酉年十二月廿四日父安三郎跡式被
家之の料同しく是は遺跡と不頼
忠林事大坂の旅之書ニ年々事ニ被く

寛保二戌年三月廿七日於二条城在番死卒九歳
忠林の骸を京都妙覚寺ニ送る

宝永六丑年四月朔日

大御書院松平遠江守組　大御番大久保山城守組伊織西行越成

二百俵　羽太十左衛門正昌

同年同月廿二日廩米二百俵を被下

正昌京大坂の御蔵奉行を承る事務く

享保十一年年三月廿七日大令御将の時

出行勝手を務む

享保十四年七月廿九日任所死

宝永六丑年四月六日

大御番松平近江守組

大御番池田帯刀組七郎兵衛惣領忠次養子

二百俵　和久権九郎行光

後三百石

同年同月廿二日広敷番頭ニ而百俵を賜来年
より二百俵となつて仰付あり
行光享保大坂の鉄砲奉行となる事十六年
享保三戌年夏二条城の定番となりし時
浄円院君紀州より江戸に下らせたまひし時
京都より御供を勤めて道にて病ありし后
白銀拾枚を賜る

享保七壬寅年八月二日跡目三百俵是よりの
二百俵ハ返し奉る
享保十一午年三月廿七日小十人之御番のとき
歩行勤方を務む

寛保三亥年三月廿二日大御番組入
延享元子年七月朔日御暇白銀拾枚時服
二を賜大坂御番に参る為之恩賜有り
延享四卯年夏二条城の御番に参る
寛延三午年四月廿七日老衰未御役十年に
ミたされハ恩賜なく入道因八郎右衛門と改
宝暦七丑年十月十四日死 八十二歳

宝永六丑年四月六日
大御番松平近江守組 二百俵 筒井源次郎忠因
大御番北条右近大夫組七番組忠儀惣領
同年同月廿二日廩米二百俵を賜り
今年又百俵ともに小普請に入る
宝永六丑年十月四日 行年 死

宝永六丑年四月六日

大御番松平近江守組　大御番北条右近大夫組八左衛門養子時無足

二百俵　松永権左衛門正照

後二百石

同年同月廿六日廩米二百俵之賜ル

今年より百俵をより御借を蒙る

正照二条大坂の定番又ハ年々番

勤ム

正徳五未年八月晦日同二百石是迄の

二百俵ハ返し上る

元文元辰年二月九日寄合入大番忠四郎　七十死

宝永六丑年四月六日

大御番松平近江守組　二百俵　蔭山七八郎包昌

西丸御書院番　同御番蔭山外記廣忠惣領

改　嘉右衛門　外記

同年同月廿二日　廣忠家禄二百俵と併り

今々年八百俵と成り御作事と成る

包昌高八百俵の知行の年々の事ゝ

享保十一午年三月廿七日　大坂御城将の時

歩行物頭と称む

元文五申年四月十九日　代官

同年七月二日　御目二百四俵定まて乃

寛保二戌年七月廿八日死　享五十歳

二百俵ハ久しく奉る
寛延元辰年十月廿二日朝鮮の信使
来りし時道中諸術乃御用勤免
しとて時服二を賜る
宝暦元未年閏六月廿三日死　七十四歳

宝永六丑年四月六日
大御番松平近江守組
実ハ御先手同心頭富永一学直英次男
二百俵　富永平三郎直忠
後　吾篤
同年同月廿六日廩米二百俵を給ハり
今年八百俵とりの御仕をも命ぜらる
直忠兄平大夫の跡式ニ而候ゟ年来之事ニ候く
享保十二年二月廿七日　小金御狩の時
勢子騎馬へと勤免
享保十五戌年七月廿三日　役従　大御番組ニ
享保十七子年六月廿八日　坂城宿直ニ

年来六波羅白洲裁許時肱之と偏り
此后も殊恩偏り
享保二十卯年十一月二条城の儀に
系り
享保二十卯年十月八日任越前 於二条城在番死 八十八歳

宝永六丑年四月二日
大番松平近江守組
實父 権太夫間宮番大谷安兵衛明信嫡子
二百俵 大屋栄之助信行
信行京大坂の勤め儀を承り奉勤く
享保十七年八月三日 父兄如在しく頭へ
町の株同しくさは越路と承り候
享保十六年三月廿七日 大番乃明将の時
歩行勤めと勤めも
享保十六年五月十二日 浅草御蔵奉行と
無つきて候やと承る

元文五申年四月十九日御代官
寛延元辰年十月廿二日朝鮮使来聘
の時瑠璃の御簾御用を務めるに付
労功として時服二つを賜る
宝暦七丑年六月廿日老輩 褒美金二枚
入横山内記支配
宝暦十二午年十月廿三日致仕
宝暦十三未年九月廿七日死 八十歳

宝永六丑年四月六日
実父猿楽同御書院番 十七郎附属之養子
大御番松平近江守組 二百俵 西村市之丞時連
同年同月廿二日蔵米二百俵を賜り
今年八百俵となりて御作下を賜る
時連京大坂の宿直手年ゟ
享保元申年四月朔日父多病に付
其の料同しく是ハ遺領を相續
享保二酉年五月十日御書院入松前伊豆守組
享保四亥年八月廿日病 永井信濃守支配

享保七寅年四月七日死

宝永六丑年四月六日

大御番松平近江守組　二百俵　寺尾又九郎正寛

覔焼火之間御番寺尾貞右衛門正信惣領

同年同月廿二日廩米二百俵を賜ひ

今年迄百俵をとり御番を勤る

病気

後死

宝永六丑年四月六日

小十人組頭蜂屋与兵衛養子貞正忠死

大御番松平近江守組　二百俵　蜂屋源之丞貞明

同年同月廿五日廩米二百俵ニ直り

宝永七寅年四月廿七日父多病ニ付跡

其父の跡同しくこれを遺跡と不願

正徳四午年五月廿二日拝入松前伊豆守組

享保三戌年三月十六日組元大番大久保

豊前守組へ御番

宝永六丑年十月廿九日

元禄三午年十二月七日桜田御殿御書院番　川井七之助名斬懸候

宝永三戌年十二月廿三日[illegible]　西丸焼火之間御書

大御番松平近江守組　元桜田殿　喜儀　川井七之助久能

宝永七寅年十月三日移入大久保淡路守組

享保二酉年二月剃入為中川伊勢守組

享保四亥年八月二日為瀧川播磨守支配

享保九辰年六月廿日死　五十七歳

宝永六丑年十月廿九日

元禄十二卯年九月　日　於桜田御殿

野田市郎兵衛勝武嫡子

西丸焼火之間御番

大御番松平近江守組

元桜田御殿

三百俵　野田市之丞忠武

忠武弟大坂の[illegible]ニ参る

正徳五未年九月廿日死

宝永六丑年十月廿九日

佐久間勝右衛門信常養子

天和二戌年七月廿八日於桜田御目見

実父[illegible]同御番

元桜田[illegible]

大御番松平近江守組　二百俵　佐久間権八郎信員

信員ハ二[illegible]大坂の[illegible]に[illegible]卒

[illegible]

享保九辰年十一月十五日　新組　新御番水野[illegible]組

宝永六丑年十月廿九日　深尾十左衛門　三国忠次

貞享二丑年十二月　日数桜田詰　西尾縫殿之同御書

大御番松平近江守組　元桜田衆　二百俵　深尾十兵衛元次

父　伊左衛門

元次高之頃の家督ハ八歳〃されハ不来

正徳元卯年二月十八日　番入松平主計頭組

同年十二月十九日致仕

享保七寅年正月晦日死七十二歳

宝永六丑年十月廿九日

元禄七戌年　月　日於桜田御目見
二百五十俵三人扶持　二百十俵切米

田中喜左衛門跡之惣領
西丸焼火之間御番

大御番松平近江守組　元桜田衆

二百十俵　田中吉左衛門信之
改　名庫

正徳三巳年　番入　松前伊豆守組

正徳五未年七月十二日致仕

享保元申年四月六日死

宝永六己丑年十月廿九日

元禄十五壬午年十二月朔日桜田御書院番
宝永三丙戌年九月十五日父死同断

大御番松平近江守組 元桜田蔵

井伊源右衛門忠清養子
西丸懽中之間詰
二百俵 亀井忠右衛門清朝

清朝弟大坂の縁之儀より来る

享保元申年九月廿二日死 五十九歳

宝永六丑年十月廿九日
本間弥右衛門時次養子
元禄四未年十二月十五日於桜田御門
実ハ撰力之同心悴
大御番松平近江守組　元桜田御蔵
二百俵　本間治部右衛門時常
正徳五未年四月廿八日番入　大久保淡路守組
享保元申年七月二日死　五十四歳

宝永六丑年十月廿九日

元禄十五午年七月於桜田出生

大御番松平近江守組 元桜田御殿

石尾七郎右衛門康次惣領

母 [illegible]

二百俵 石尾小次郎康盛

康盛 元来大坂の御番衆より年々事務ニ付

享保十三申年十二月廿四日跡入青木右衛門支配

享保二十卯年十二月十日致仕

元文二巳年七月二日死

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan